

【経済産業省】

会計システムに求められる IT統制対応機能一覧表（奉行V ERP11版）

自社システムのIT統制対応状況がわかるチェックシート付き



出典：システム管理基準追補版（財務報告に係るIT統制ガイダンス）
追加付録「財務会計パッケージソフトウェアの機能等一覧表」

OBIC BUSINESS CONSULTANTS CO.,LTD.



使い方

IT統制対応機能一覧表（奉行V ERP11版）（P.3～）

IT統制で会計システムに求められる機能、および「奉行V ERP11シリーズ」における対応状況をまとめました。IT統制対応でシステム入れ替えご検討中の方やこれから準備を始める方はぜひ一度ご覧ください。

（付録）会計システムIT統制対応チェックシート（P.7～）

「ご利用中の会計システムがIT統制に対応しているかどうかが分からない…」
そんな方向けに、ご自身で対応状況が確認できるチェックシートをご用意しました。
質問に〇×で回答するだけで簡単に確認できますのでぜひご利用ください。

©OBIC BUSINESS CONSULTANTS All rights Reserved.

IT統制対応機能一覧表（奉行V ERP11）

2022/6現在【4.08版】

質問のカテゴリ	想定するリスク	統制目標	質問項目　*は、電子帳簿保存法の要求している要件	いいえ	はい	コメント	メニューによる設定状況			公表場所（URLなど）
							デフォルト（基本設定）	オプション選択可能	電子帳簿保存法対応の場合のみ	
1　データの入力	入力されるデータに漏れや重複がある。	入力データについて完全性、正確性、正当性を維持することができる。	1-1 入力の正確性と完全性の確保							
			1　入力の正確性を確保するため、入力時のマスタ・ファイルチェック、論理チェック等、プログラムによるチェック機能があるか。	－	－					
			①伝票日付と会計期間の整合性のチェック機能		○	会計期間以外の日付を伝票は入力できない。 [仕訳処理]-[仕訳処理]の伝票日付欄に入力し確定すると、会計期間外の日付である旨のメッセージが表示され、登録をすることができない。	○			
			②貸借金額のバランスのチェック機能		○	貸借金額が不一致の状態で登録しようとすると、その旨のメッセージが表示され、登録をすることができない。	○			
			③勘定科目(コード)のマスタへの実在性のチェック機能		○	[仕訳処理]-[仕訳処理]の仕訳伝票の勘定科目コード入力欄に、[勘定科目登録]で登録されていない勘定科目のコードを入力し確定すると、登録されていない旨のメッセージが表示され、確定することができない。	○			
			④勘定科目の貸借の位置に関するチェック機能		○	例えば、[仕訳処理]-[仕訳処理]で借方に「売上高」を入力し、異常と思われる特殊な仕訳を入力後、登録すると、そのタイミングで特殊な仕訳である旨の警告メッセージが表示される。 事前に[導入処理]-[運用設定]-[会社運用設定]で、[伝票設定]の「特殊仕訳チェック」を「チェックする」に設定しておく。 また[仕訳伝票]-[仕訳入力補助]-[特殊仕訳設定]で、異常と思われる特殊な仕訳を追加することが可能である。（代表的なのものは初期登録済み。）		○		
			2　入力原票との正確性チェックに利用できる帳票出力機能があるか。（ある場合は、帳票名を記載）		○	[仕訳処理]-[仕訳伝票リスト]で入力した伝票の内容を一覧形式で確認可能。	○			
			3　データの入力後、入力総件数や合計金額に関するトータルチェックをおこなうための出力機能があるか。		○	[仕訳処理]-[仕訳伝票リスト]を印刷すると、出力された「仕訳伝票リスト」には合計金額（伝票計や日計）が表示される。	○			
	正当で無いデータ（未承認）が入力される。		1-2 仕訳データ確定の承認機能							
			1　仕訳データの登録確定に関する権限者による承認機能があるか。		○	① [導入処理]-[運用設定]-[会社運用設定]で、[承認設定]の「承認機能」を「使用する」に設定することで、承認機能が有効になる。 ②運用管理ツールの [セキュリティ管理]-[権限管理]-[メニュー権限登録]で、承認者にのみ承認権限を与えることで承認処理を制限。 ③ [仕訳処理]-[仕訳伝票承認]-[仕訳伝票承認]にて、承認処理を行う。		○		
			2　承認の履歴を保持し、表示、検索できる機能があるか。		○	[仕訳処理]-[仕訳伝票リスト]で、承認の履歴を確認可能。	○			
	入力されたデータに正当で無い変更が行われる。		1-3 変更の可能性と履歴の保存及び追跡可能性							
			1　確定登録済み仕訳データの変更を禁止し、赤伝票、黒伝票による訂正のみとすることができる機能があるか。 *		○	■仕訳承認機能にて可能 [仕訳処理]-[仕訳伝票承認]-[仕訳伝票承認]で、仕訳伝票を承認すると、その仕訳は一切変更削除不可。 ■締処理にて可能 [仕訳処理]-[月次処理]-[月次本締め]を実行すると、締期間の仕訳は [仕訳処理]-[仕訳処理]上、新規登録・修正・削除不可になる。 [決算処理]-[締処理]-[決算仮締め]を実行後は、[決算処理]-[締処理]-[決算仮締め後修正]-[仕訳伝票]-[仕訳伝票決算仮締め後修正]により、仕訳伝票の赤黒処理のみ可能。また [決算処理]-[締処理]-[決算本締め]を実行すると、締期間の仕訳は一切新規登録・修正・削除不可になる。 ※上記どちらでも制御可能	○			
			2　確定登録済み仕訳データを画面から直接に呼び出して変更可能としている場合に、変更証跡を残す機能があるか。 *		－	仕訳承認機能および、締処理にて確定した仕訳データは直接修正は不可能。 赤伝票、黒伝票での修正を、[決算仮締め後修正]にて行った場合は、変更時の証跡を確認することが可能。 変更証跡は、[決算処理]-[締処理]-[決算仮締め後変更レポート]メニューで確認可能。	－			
			3　以下の一定の期間について、仕訳データの追加、訂正を禁止する機能があるか。	－	－					
			①会計期間		○	[仕訳処理]-[月次処理]-[月次本締め]を実行すると、締期間の仕訳は [仕訳処理]-[仕訳処理]上、新規	○			
			②半期		○	登録・修正・削除不可になる。	○			
			③四半期		○	[決算処理]-[締処理]-[決算仮締め]を実行後は、[決算処理]-[締処理]-[決算仮締め後修正]-[仕訳伝票]-[仕訳伝票決算仮締め後修正]により、仕訳伝票の赤黒処理のみ可能。 また、[仕訳処理]-[仕訳入力補助]-[仕訳伝票入力期間制限]でも、指定した期間以外の仕訳データの追加・訂正・削除は不可。	○			
			④月次		○		○			
			4　一旦、一定の期間について、仕訳データの追加、訂正を禁止する設定とした後で、その設定を解除した場合に解除の記録は残す機能があるか。		○	[月次仮締め]の解除をした場合は、「月次締め履歴」にて、解除履歴を確認可能。 また、解除期間での変更証跡は、[仕訳処理]-[月次処理]-[月次仮締め]-[月次仮締め後変更レポート]メニューで確認可能。 [月次本締め][決算本締め]を実行した場合は、締処理の解除不可。 「仕訳伝票入力期間制限」の設定変更した場合は、運用管理ツールの[ログ管理]-[ログビューア]もしくは勘定奉行V ERPの[管理ツール]-[操作ログ表示]でにて変更時期・内容を確認可能。	○			
			5　変更した仕訳データの履歴が保存され、変更前後の仕訳データの対応を含めた検索、表示する機能があるか。		○	[随時処理]-[電子帳簿変更履歴]-[仕訳伝票履歴]で、検索、表示することが可能。	○			

質問のカテゴリ	想定するリスク	統制目標	質問項目	*は、電子帳簿保存法の要求している要件	いいえ	はい	コメント	メニューによる設定状況			公表場所（URLなど）
								デフォルト（基本設定）	オプション選択可能	電子帳簿保存法対応の場合のみ	
2　インターフェイス			2-1 アプリケーションとしてのインターフェース機能								
	他のシステムから不正なデータを受け取る。	他のシステムから受け取るデータは正当、正確、完全である。	1	販売管理システムなどの他の業務管理システムから財務会計システムへの仕訳データの受け入れる機能があるか。		○	他の奉行シリーズの[随時処理]-[仕訳伝票作成]-[仕訳伝票作成]で作成したデータを、勘定奉行V ERP側で連動して受け入れることが可能。	○			
			2	機能がある場合、可能な業務管理システムや、機能の内容が開示されているか。		○	操作説明（ヘルプ）にて記載有。	○			
	他のシステムから受け取るデータが重複欠落する。										
	他のシステムから受け取るデータが正確で無い。		2-2 汎用データによるインポート機能								
			1	CSVなどの汎用データのインポート機能があるか。		○	他社システムで作成したデータを[随時処理]-[汎用データ受入]で受入可能。	○			
			2	インポートできる汎用データのレイアウトを開示しているか。		○	操作説明（ヘルプ）にて記載有。	○			
	システムから正当でないデータが出力される。	システムから出力されるデータは正当、正確、完全である。	3	汎用データの受け入れの際に正当性、正確性、完全性確保のためのチェック機能があるか。		○	[随時処理]-[汎用データ受入]で、マスタまたは伝票を受け入れる際に、前述「1-1入力の正確性と完全性の確保」で記載したとおり、それぞれに対応した手入力画面で確保されているチェック機能と同等の機能がある。 チェックに該当した場合には、受け入れられない理由を受入時に都度エラーを表示することや、未受入ファイルを作成することが可能。	○			
			4	汎用データの受け入れの際に、期間帰属性確保のためのチェック機能があるか。		○	[随時処理]-[汎用データ受入]で、伝票を受け入れる際に、前述「1-1入力の正確性と完全性の確保」で記載したとおり、仕訳伝票入力画面で確保されているチェック機能と同等の機能がある。	○			
	システムから出力されるデータが正確で無い。		2-3 汎用データによるエクスポート機能								
			1	CSVなどの汎用データのエクスポート機能があるか。		○	[随時処理]-[汎用データ作成]で汎用データを作成可能。	○			
	システムから出力されるデータに重複漏れがある。		2	エクスポートできる汎用データのレイアウトを開示しているか。		○	インポートのレイアウトと同じ。操作説明（ヘルプ）にて記載有。	○			
			3	汎用データのエクスポートの正当性、正確性、完全性を確保する機能があるか。		○	汎用データは、厳密な入力データチェック機能により入力されたデータのみがエクスポートできる。	○			
3　集計・検索・出力の機能			3-1 仕訳データの集計								
	仕訳データが承認された勘定科目に正確に反映されない。	仕訳データが正当な勘定科目に正確完全に反映され集計される。	1	入力された仕訳データをもとに、主要会計帳簿の集計結果を正確に作成することができるか。		○	入力された、仕訳データをもとに、すべての会計帳簿は集計されるため、入力データは常にリアルタイムに反映される。バッチ更新処理などの概念は存在しない。	○			
	仕訳データの勘定科目合計に漏れや重複がある。	必要とされる仕訳データのログは正確で完全に保存され検索可能である。	2	仕訳データの変更は、主要会計帳簿の集計結果に正しく反映されるか。		○		○			
	関連する帳票の整合性が取れない（不完全、不正確）。	必要とされる仕訳データやログは印字可能である。	3	バッチ更新処理のタイミング等により、仕訳データの追加、訂正が集計結果に反映されないことが無いようにする制御機能があるか。		○		○			
	仕訳データが検索できない（不完全、不正確）。		4	関連する帳票間の整合性を確認するために、合計金額・件数等の情報を表示する機能があるか、もしくは照合した結果を表示する機能があるか。		○	各帳票からその基となるデータにジャンプできるドリルダウン機能により、確認も可能。	○			
	仕訳データやログが印字できない。		3-2 仕訳データの検索								
			1	仕訳データを特定する項目を有しているか。また、その項目は何か。 *		○	[仕訳処理]-[仕訳処理]の伝票日付と伝票Noを利用して、仕訳伝票を特定することが可能。	○			
			2	伝票番号の入力方法（自動採番、手入力など）は明示されているか。（番号を入力しないことが可能な場合も記載する）。		○	[導入処理]-[会計期間設定]-[会計期間設定]における[伝票設定]の「付番方法」にて、「月度連番」「年度連番」「手入力」を選択することが可能。	○			
			3	伝票番号の一括付け直し（月別の連番への付け直し等）が可能な場合に元の入力日付等のログは残るか。		○	[随時処理]-[電子帳簿変更履歴]-[仕訳伝票履歴]で、伝票Noを変更した伝票に関する履歴を確認可能。	○			
			4	伝票番号の欠番チェック及び重複チェックできる機能があるか。		○	■欠番チェック [仕訳伝票]-[仕訳伝票入力内容チェック]-[伝票No.欠番確認リスト]で、伝票番号の欠番を一覧でチェック可能。 また、欠番が発生している場合に、それが入力漏れによるものなのか、伝票の修正・削除によるものなのかを確認可能。 ■重複チェック [導入処理]-[会計期間設定]-[会計期間設定]の[伝票設定]の「重複チェック」で、「月度単位チェック」または「年度単位チェック」に設定すると、伝票番号の重複チェックが可能。 また、「重複時登録処理」を「登録不許可」に設定すると、仕訳伝票を登録するタイミングで、警告メッセージを表示し、登録不可。		○		
			5	仕訳データの処理日である入力日が、データ上保持され、必要に応じ表示できるか。		○	[仕訳処理]-[仕訳処理]で画面左下に作成日付・修正日付が表示される。[仕訳処理]-[仕訳伝票リスト]でも作成日付・修正日付・承認日付を確認可能。	○			
			6	以下の項目により、仕訳データを検索する機能があるか。 *	－	－					
				①伝票番号		○	[仕訳処理]-[仕訳処理]の[伝票検索]ボタンで検索可能。	○			
				②伝票日付		○		○			
				③入力日付		○		○			
				④入力者		○		○			
				⑤承認者		○		○			
			3-3 出力に関する機能								
			1	出力帳票等に、出力者ID、出力日付（もしくは最終処理日の日付の印字）、出力累計回数等が印字できるか。		○	基本的に、帳票の印刷時に、出力者ID、出力日付、利用PC名の印字が可能。（専用用紙（元帳）を除く）	○			

質問のカテゴリ	想定するリスク	統制目標	質問項目	*は、電子帳簿保存法の要求している要件	いいえ	はい	コメント	メニューによる設定状況			公表場所（URLなど）
								デフォルト（基本設定）	オプション選択可能	電子帳簿保存法対応の場合のみ	
4　繰越処理	正しい期首残高が維持されない。	期首残高について完全性、正確性、正当性を維持することができる。	4　年次及び月次等の繰越処理								
				1　期首残高を確定しないと、仕訳を入力することができないなど一定の制限する機能があるか。		○	開始残高の正当性は残高確定にて実現。 開始残高確定時に[導入処理]-[残高入力]-[開始残高入力]-[開始残高入力]にて「残高確定」を実行。実行すると、各勘定科目の開始残高が一切修正できなくなる。 また、開始残高確定後は、翌年度以降、前年度の残高が翌年度の期首残高に引き継がれることが保証される。	○			
				2　期首残高を修正した場合には、修正の証跡を残すことができるか。		○	デフォルト状態でログの収集は自動開始。ログ情報の閲覧は、運用管理ツールの[ログ管理]-[ログビューア]もしくは勘定奉行V ERPの[管理ツール]-[操作ログ表示]で確認可能。	○			
				3　確定処理後の残高を修正した場合には、修正の証跡を残すことができるか。		○	[決算処理]-[締処理]-[決算仮締め]を実行し残高確定すると、修正不可になる。	○			
5　各種法規対応	消費税の入力が不正確、不完全になる。 電子帳簿保存法対応機能が明確で無く設定が不十分でデータの正当性、正確性、完全性が確保されない。	消費税が正当、正確、完全である。 電子帳簿保存法対応の機能が有効に設定され、データの正当性、正確性、完全性が確保される。	5-1 消費税の処理								
				1　仮払消費税、仮受消費税の自動計算による仕訳と手入力による仕訳を区別して表示する機能があるか。		○	[仕訳伝票]-[仕訳伝票入力内容チェック]-[消費税手入力確認リスト]で、仮払消費税、仮受消費税の金額を手入力した仕訳明細だけを、一覧で確認可能。また、以下の2つに区分して確認可能。 〇自動計算された消費税金額を手修正している場合 〇仮払消費税科目・仮受消費税科目を直接計上している場合	○			
				2　自動計算した消費税等の金額を手で訂正した場合、ログを残す機能があるか。		○		○			
			5-2 電子帳簿保存法への対応可能性								
				1　電子帳簿保存法への対応を可能とする機能があるか。その場合の対応機能が明示されているか。		○	勘定奉行V ERPは電子帳簿保存法に対応。詳細内容はマニュアルに記載。	○			
6　パッケージの導入保守	想定外のプログラム、パラメータ、データの追加及び変更がなされる。 アクセス可能なDBMS及びOS環境下にて運用している場合、DBMSに直接アクセスしてプログラム、パラメータ、データの改ざんをされる。	変更が必要な対象項目以外は保護されている。 変更された場合には変更の事実を把握できる。 変更履歴が記録される。 適切なアクセス権限の管理がなされている。	6-1 新規セットアップ								
			6-1-1システム初期設定項目（パラメータ）								
				1　システム管理上の重要な設定項目が変更された場合の変更証跡を残すことができるか。		○	デフォルト状態でログの収集は自動開始。ログ情報の閲覧は、運用管理ツールの[ログ管理]-[ログビューア]もしくは勘定奉行V ERPの[管理ツール]-[操作ログ表示]で確認可能。	○			
				2　ユーザの希望に応じて初期設定項目そのものを変更することができるか。		○	変更可能。		○		
				3　マスタ・データ（マスタ・ファイル、テーブル）の項目の追加変更の記録が保存され、常時、表示ができるか。		○	デフォルト状態でログの収集は自動開始。ログ情報の閲覧は、運用管理ツールの[ログ管理]-[ログビューア]もしくは勘定奉行V ERPの[管理ツール]-[操作ログ表示]で確認可能。	○			
				4　特定の項目について変更のタイミングを制御する機能があるか。（例えば導入時や年度の繰越時だけに制限されている等）		○	登録されたマスタが仕訳伝票で利用されると削除できない。	○			
			6-1-2ソースプログラム								
				1　パッケージ導入時のプログラム変更を防止する仕組みはあるか。（ソースコードは開示しないなど。なお開示とは顧客と合意のうえパッケージのコア部分を改変するような場合を想定している。）		○	ソースコードは開示はしない。	○			
				2　カスタマイズが行われないよう保護されているか。		○	ソースコード変更は不可能。	○			
				3　カスタマイズをしている場合にはカスタマイズしたことを判別できるか。		－	ソースコード変更は不可能。				
			6-1-3DBMS								
				1　管理方法の確立している汎用的なDBMSを使用しているか。		○	Microsoft SQL Server 2019を使用。	○			
				2　DBMSに関するデータインターフェイスの仕様の開示ができるか。		○	別途開発パートナー（OESP）契約を行うことでデータインターフェイス情報を開示可能。		○		
				3　パッケージが使用するDBMSのIDはインストール時にパスワードを変更することができるか。	○		OBCが内部的に用意している、Microsoft SQL Serverへ接続するユーザーのIDとパスワードはあるが、その情報は隠蔽されているため、ユーザーが変更することはできない。				
				4　パッケージが使用するDBMSのIDは運用時にパスワードを変更することができるか。	○		OBCが内部的に用意している、Microsoft SQL Serverへ接続するユーザーのIDとパスワードはあるが、その情報は隠蔽されているため、ユーザーが変更することはできない。				
			6-1-4OS								
				1　会計パッケージの一般ユーザに基盤OSの管理者権限を与えない設定ができるか。		○	OSの権限と勘定奉行V ERPの権限は無関係。勘定奉行V ERPユーザーがOSの管理者である必要はない。	○			
				2　パッケージに使用するOSのIDはインストール時にパスワードを変更することができるか。	○		OSの権限と勘定奉行V ERPの権限は無関係。パスワード変更しても運用は可能。				
				3　パッケージに使用するOSのIDは運用時にパスワードを変更することができるか。	○		OSの権限と勘定奉行V ERPの権限は無関係。パスワード変更しても運用は可能。				
			6-2 バージョンアップ								
				1　バージョンアップ時に、変更される機能は、明示されているか。		○	内容については、[ヘルプ]-[機能追加／改正情報]にて確認可能。	○			
				2　バージョンアップ時に既存のデータやプログラムに影響がある場合はその影響は明確であるか。		○	内容については、[ヘルプ]-[機能追加／改正情報]にて確認可能。	○			
				3　バージョンを表示する機能があるか。		○	[ヘルプ]-[バージョン情報]で表示可能。	○			
				3　正常にバージョンアップが終了したことを確認する機能（仕組み）があるか。		○	[ヘルプ]-[バージョン情報]-[セットアップ情報]で確認可能。	○			
				4　バージョンアップ失敗時にロールバックできる機能（仕組み）があるか。		○	ロールバック可能。バージョンアップに失敗しても、ロールバックが働きアプリケーションに影響を与えない。	○			

質問のカテゴリ	想定するリスク	統制目標	質問項目	*は、電子帳簿保存法の要求している要件	いいえ	はい	コメント	メニューによる設定状況			公表場所（URLなど）
								デフォルト（基本設定）	オプション選択可能	電子帳簿保存法対応の場合のみ	
7　システム運用管理			7-1 稼動記録の保持								
	障害が検知されない。 障害に対して誤った対応がなされる。 障害対応が放置される。	障害発生が記録される仕組みがある。	1　障害が発生した場合に適切に記録される仕組みになっているか。			○	OBC製品上のエラー情報は利用Windowsマシンのイベント ビューアにすべて出力・確認可能。	○			
			2　システムの稼動記録(ログ)を保持し、必要に応じて表示する機能があるか。			○	デフォルト状態でログの収集は自動開始。勘定奉行V ERPへの認証（ログイン・ログアウト）は運用管理ツールの[ログ管理]-[ログビューア]の「認証ログ情報」で、メニューの起動は「メニューログ情報」で、処理に関しては「アクションログ」で確認可能。	○			
			3　システムの稼動記録(ログ)の変更は、改ざんできないように保護されているか。			○	編集は不可能。	○			
	データ及びログを喪失した際、復元することができない。	バックアップ及びリカバリーに関するサポート機能がある。	7-2 データファイルの保全								
			1　会計データの自動バックアップの機能があるか。			○	製品終了時に、バックアップ処理実施確認画面を自動起動する。 スケジュールバックアップはBACKUP for 奉行V ERP(もしくは勘定奉行V ERP 自動実行管理オプション)で指定時間と場所にバックアップを作成することが可能。	○			
			2　バックアップファイルを使用したデータのリカバリー機能があるか。			○	[データ領域管理]-[バックアップ／復元]-[バックアップ復元]	○			
8　アクセス管理等			8-1 システムに対するアクセス制限								
			8-1-1ログイン方法								
	職務権限と大幅に乖離した権限の付与がなされる。 管理者権限の不正利用がなされる。	ユーザID及び権限付与状況の一覧情報が出力される。 システム管理者と一般ユーザを区分することができる。 システム利用者の職務権限とアクセス権限を一致させ特定することができる。 特定ユーザのログを収集することができる。	1　ユーザIDとパスワードによりログインできる者を制限する機能があるか。			○	運用管理ツールの[セキュリティ管理]-[利用者登録]で登録された利用者のみログイン可能。	○			
			2　パスワードの桁数制限や、アカウントロック機能があるか。			○	運用管理ツールの[セキュリティ管理]-[セキュリティポリシー]-[パスワードポリシー]で、桁数だけでなく、利用文字種、パスワード変更期間設定、過去利用したパスワードの利用禁止など詳細に設定可能。[アカウントポリシー]では、ログイン失敗回数にてアカウントロック機能などが設定可能。	○			
			8-1-2制御方法								
			1　システム管理上の重要な設定項目（ユーザIDの改廃、権限の付与、等）のアクセス権を特定の管理責任者に限定する機能があるか。			○	運用管理ツールの[セキュリティ管理]-[利用者登録]で「利用者管理」「権限管理」等権限が付与されている管理者のみ設定が可能。	○			
			2　一般ユーザとシステム管理者の権限を区別して管理する機能があるか。			○	運用管理ツールの[セキュリティ管理]-[権限管理]-[メニュー権限登録]及び[データ領域権限登録]にて、一般ユーザー・システム管理者等の権限を区別して管理可能。	○			
			3　メニューによる機能単位や、勘定科目単位に制限する機能があるか。			○	運用管理ツールの[セキュリティ管理]-[権限管理]-[メニュー権限登録]でメニューごとの権限を登録可能。また、勘定奉行V ERPの[導入処理]-[権限登録]-[部門権限登録]で利用者ごとに扱える部門を設定し、[仕訳処理]-[仕訳入力補助]-[部門別科目入力制限]で各部門で扱える勘定科目を設定することで、勘定科目単位での制限ができます。 （※奉行V ERP Standard Edition以上）	○			
			4　一定の権限を束ねた権限グループを設定する機能があるか。			○	OBC Management Studio（奉行V ERPオプション製品※）の [セキュリティ管理]-[権限管理]-[メニュー権限管理]-[メニュー権限グループ登録]でグループごとに、権限を設定可能。 （※奉行V ERP Standard Edition以上）		○		
			8-2 ユーザIDの管理に資する機能								
			1　ユーザIDの一覧を出力する機能があるか。			○	運用管理ツールの[セキュリティ管理]-[利用者登録]で登録されている利用者の情報を印刷物で確認可能。	○			
			2　ユーザID一覧とあわせて最終更新日付を入手する機能があるか。			○	デフォルト状態でログの収集は自動開始。ログ情報の閲覧は、運用管理ツールの[ログ管理]-[ログビューア]で、更新された日付を確認することが可能。	○			
			3　ユーザIDの追加、変更、削除の履歴を入手する機能があるか。			○	デフォルト状態でログの収集は自動開始。ログ情報の閲覧は、運用管理ツールの[ログ管理]-[ログビューア]で、作成・修正・削除履歴確認可能。	○			
			4　すべてのIDのパスワードの変更状況を管理する機能があるか。			○	運用管理ツールの[セキュリティ管理]-[利用者登録]で利用者情報を出力することで、「パスワード最終更新日時」を確認可能。 パスワードの変更期限設定、および過去利用パスワードの利用不可範囲設定によりシステム側にて管理可能。厳密なパスワード管理機能を持つ。	○			
			5　異動や退職に応じて、期中でユーザの削除、新規登録、権限を変更する機能があるか。			○	運用管理ツールの[セキュリティ管理]-[利用者登録]で利用者を登録し、[セキュリティ管理]-[権限管理]-[メニュー権限管理]で権限登録が可能。	○			
			8-3 ログ収集の可否								
			1　ユーザ（特権ユーザ、一般ユーザ）のログインログを把握する機能があるか。			○	デフォルト状態でログの収集は自動開始。ログ情報の閲覧は、運用管理ツールの[ログ管理]-[ログビューア]の「認証ログ」で確認可能。	○			
			2　ユーザ（特権ユーザ、一般ユーザ）の実行ログを把握する機能があるか。			○	デフォルト状態でログの収集は自動開始。ログ情報の閲覧は、運用管理ツールの[ログ管理]-[ログビューア]の「アクションログ」で確認可能。	○			
			8-4 権限設定の制限など								
			1　兼務すべきでない権限の組み合わせ等（承認者と申請者が同一の場合等）を制限する機能があるか。			○	[仕訳伝票]-[仕訳伝票入力内容チェック]-[自己承認伝票確認リスト]で、自己承認された仕訳伝票（承認者と伝票入力者が同一の場合）を抽出し、一覧で確認可能。【発見的統制】 なお、[導入処理]-[運用設定]-[会社運用設定]で、[伝票設定]の「自己承認の許可」を「許可しない」に設定することで、自己承認伝票を最終的にチェックするのではなく、完全に、自己承認自体を制限することも可能。【防止的統制】	○			
			2　代理承認等（承認者不在時の対応）の機能はあるか。				今後対応予定。				
			3　ある場合には代理承認等であることを確認することができるか。				今後対応予定。				

会計システムIT統制対応チェックシート

「対応状況」と「対応状況の理由」を、IT統制対応機能一覧表（奉行V ERP11版）を参考に記載してみましょう。

質問のカテゴリ	想定するリスク	統制目標	質問項目（*は、電子帳簿保存法の要求している要件）	対応状況 ○・×	対応状況の理由
1　データの入力	入力されるデータに漏れや重複がある。	入力データについて完全性、正確性、正当性を維持することができる。	1-1 入力の正確性と完全性の確保		
			1　入力の正確性を確保するため、入力時のマスタ・ファイルチェック、論理チェック等、プログラムによるチェック機能があるか。	―	
			①伝票日付と会計期間の整合性のチェック機能		
			②貸借金額のバランスのチェック機能		
			③勘定科目(コード)のマスタへの実在性のチェック機能		
			④勘定科目の貸借の位置に関するチェック機能		
			2　入力原票との正確性チェックに利用できる帳票出力機能があるか。（ある場合は、帳票名を記載）		
			3　データの入力後、入力総件数や合計金額に関するトータルチェックをおこなうための出力機能があるか。		
	正当で無いデータ（未承認）が入力される。		1-2 仕訳データ確定の承認機能		
			1　仕訳データの登録確定に関する権限者による承認機能があるか。		
			2　承認の履歴を保持し、表示、検索できる機能があるか。		
	入力されたデータに正当で無い変更が行われる。		1-3 変更の可能性と履歴の保存及び追跡可能性		
			1　確定登録済み仕訳データの変更を禁止し、赤伝票、黒伝票による訂正のみとすることができる機能があるか。 *		
			2　確定登録済み仕訳データを画面から直接に呼び出して変更可能としている場合に、変更証跡を残す機能があるか。 *		
			3　以下の一定の期間について、仕訳データの追加、訂正を禁止する機能があるか。	―	
			①会計期間		
			②半期		
			③四半期		
			④月次		
			4　一旦、一定の期間について、仕訳データの追加、訂正を禁止する設定とした後で、その設定を解除した場合に解除の記録は残す機能があるか。		
			5　変更した仕訳データの履歴が保存され、変更前後の仕訳データの対応を含めた検索、表示する機能があるか。		

質問のカテゴリ	想定するリスク	統制目標	質問項目（*は、電子帳簿保存法の要求している要件）		対応状況 ○・×	対応状況の理由
2　インターフェイス	他のシステムから不正なデータを受け取る。 他のシステムから受け取るデータが正確で無い。	他のシステムから受け取るデータは正当、正確、完全である。	2-1 アプリケーションとしてのインターフェース機能			
				1　販売管理システムなどの他の業務管理システムから財務会計システムへの仕訳データの受け入れる機能があるか。		
				2　機能がある場合、可能な業務管理システムや、機能の内容が開示されているか。		
			2-2 汎用データによるインポート機能			
				1　CSVなどの汎用データのインポート機能があるか。		
				2　インポートできる汎用データのレイアウトを開示しているか。		
	システムから正当でないデータが出力される。 システムから出力されるデータが正確で無い。 システムから出力されるデータに重複漏れがある。	システムから出力されるデータは正当、正確、完全である。		3　汎用データの受け入れの際に正当性、正確性、完全性確保のためのチェック機能があるか。		
				4　汎用データの受け入れの際に、期間帰属性確保のためのチェック機能があるか。		
			2-3 汎用データによるエクスポート機能			
				1　CSVなどの汎用データのエクスポート機能があるか。		
				2　エクスポートできる汎用データのレイアウトを開示しているか。		
				3　汎用データのエクスポートの正当性、正確性、完全性を確保する機能があるか。		
3　集計･検索･出力の機能	仕訳データが承認された勘定科目に正確に反映されない。 仕訳データの勘定科目合計に漏れや重複がある。 関連する帳票の整合性が取れない（不完全、不正確）。 仕訳データが検索できない（不完全、不正確）。 仕訳データやログが印字できない。	仕訳データが正当な勘定科目に正確完全に反映され集計される。 必要とされる仕訳データのログは正確で完全に保存され検索可能である。 必要とされる仕訳データやログは印字可能である。	3-1 仕訳データの集計			
				1　入力された仕訳データをもとに、主要会計帳簿の集計結果を正確に作成することができるか。		
				2　仕訳データの変更は、主要会計帳簿の集計結果に正しく反映されるか。		
				3　バッチ更新処理のタイミング等により、仕訳データの追加、訂正が集計結果に反映されないことが無いようにする制御機能があるか。		
				4　関連する帳票間の整合性を確認するために、合計金額･件数等の情報を表示する機能があるか、もしくは照合した結果を表示する機能があるか。		
			3-2 仕訳データの検索			
				1　仕訳データを特定する項目を有しているか。また、その項目は何か。 *		
				2　伝票番号の入力方法（自動採番、手入力など）は明示されているか。（番号を入力しないことが可能な場合も記載する）。		
				3　伝票番号の一括付け直し(月別の連番への付け直し等)が可能な場合に元の入力日付等のログは残るか。		
				4　伝票番号の欠番チェック及び重複チェックできる機能があるか。		
				5　仕訳データの処理日である入力日が、データ上保持され、必要に応じ表示できるか。		
				6　以下の項目により、仕訳データを検索する機能があるか。 *	ー	
				①伝票番号		
				②伝票日付		
				③入力日付		
				④入力者		
				⑤承認者		
			3-3 出力に関する機能			
				1　出力帳票等に、出力者ID、出力日付（もしくは最終処理日の日付の印字）、出力累計回数等が印字できるか。		

質問のカテゴリ	想定するリスク	統制目標	質問項目（*は、電子帳簿保存法の要求している要件）	対応状況 ○・×	対応状況の理由
4　繰越処理	正しい期首残高が維持されない。	期首残高について完全性、正確性、正当性を維持することができる。	4　年次及び月次等の繰越処理		
			1　期首残高を確定しないと、仕訳を入力することができないなど一定の制限する機能があるか。		
			2　期首残高を修正した場合には、修正の証跡を残すことができるか。		
			3　確定処理後の残高を修正した場合には、修正の証跡を残すことができるか。		
5　各種法規対応	消費税の入力が不正確、不完全になる。 電子帳簿保存法対応機能が明確で無く設定が不十分でデータの正当性、正確性、完全性が確保されない。	消費税が正当、正確、完全である。 電子帳簿保存法対応の機能が有効に設定され、データの正当性、正確性、完全性が確保される。	5-1　消費税の処理		
			1　仮払消費税、仮受消費税の自動計算による仕訳と手入力による仕訳を区別して表示する機能があるか。		
			2　自動計算した消費税等の金額を手で訂正した場合、ログを残す機能があるか。		
			5-2　電子帳簿保存法への対応可能性		
			1　電子帳簿保存法への対応を可能とする機能があるか。その場合の対応機能が明示されているか。		
6　パッケージの導入保守	想定外のプログラム、パラメータ、データの追加及び変更がなされる。 アクセス可能なDBMS及びOS環境下にて運用している場合、DBMSに直接アクセスしてプログラム、パラメータ、データの改ざんをされる。	変更が必要な対象項目以外は保護されている。 変更された場合には変更の事実を把握できる。 変更履歴が記録される。 適切なアクセス権限の管理がなされている。	6-1　新規セットアップ		
			6-1-1システム初期設定項目（パラメータ）		
			1　システム管理上の重要な設定項目が変更された場合の変更証跡を残すことができるか。		
			2　ユーザの希望に応じて初期設定項目そのものを変更することができるか。		
			3　マスタ・データ（マスタ・ファイル、テーブル）の項目の追加変更の記録が保存され、常時、表示ができるか。		
			4　特定の項目について変更のタイミングを制御する機能があるか。（例えば導入時や年度の繰越時だけに制限されている等）		
			6-1-2ソースプログラム		
			1　パッケージ導入時のプログラム変更を防止する仕組みはあるか。（ソースコードは開示しないなど。なお開示とは顧客と合意のうえパッケージのコア部分を改変するような場合を想定している。）		
			2　カスタマイズが行われないよう保護されているか。		
			3　カスタマイズをしている場合にはカスタマイズしたことを判別できるか。		
			6-1-3DBMS		
			1　管理方法の確立している汎用的なDBMSを使用しているか。		
			2　DBMSに関するデータインターフェイスの仕様の開示ができるか。		
			3　パッケージが使用するDBMSのIDはインストール時にパスワードを変更することができるか。		
			4　パッケージが使用するDBMSのIDは運用時にパスワードを変更することができるか。		
			6-1-4OS		
			1　会計パッケージの一般ユーザに基盤OSの管理者権限を与えない設定ができるか。		
			2　パッケージに使用するOSのIDはインストール時にパスワードを変更することができるか。		
			3　パッケージに使用するOSのIDは運用時にパスワードを変更することができるか。		
			6-2　バージョンアップ		
			1　バージョンアップ時に、変更される機能は、明示されているか。		
			2　バージョンアップ時に既存のデータやプログラムに影響がある場合はその影響は明確であるか。		
			3　バージョンを表示する機能があるか。		
			3　正常にバージョンアップが終了したことを確認する機能（仕組み）があるか。		
			4　バージョンアップ失敗時にロールバックできる機能（仕組み）があるか。		

質問のカテゴリ	想定するリスク	統制目標	質問項目（*は、電子帳簿保存法の要求している要件）	対応状況 ○・×	対応状況の理由
7　システム運用管理	障害が検知されない。 障害に対して誤った対応がなされる。 障害対応が放置される。 データ及びログを喪失した際、復元することができない。	障害発生が記録される仕組みがある。 バックアップ及びリカバリーに関するサポート機能がある。	7-1 稼動記録の保持		
			1　障害が発生した場合に適切に記録される仕組みになっているか。		
			2　システムの稼動記録(ログ)を保持し、必要に応じて表示する機能があるか。		
			3　システムの稼動記録(ログ)の変更は、改ざんできないように保護されているか。		
			7-2 データファイルの保全		
			1　会計データの自動バックアップの機能があるか。		
			2　バックアップファイルを使用したデータのリカバリー機能があるか。		
8　アクセス管理等	職務権限と大幅に乖離した権限の付与がなされる。 管理者権限の不正利用がなされる。	ユーザID及び権限付与状況の一覧情報が出力される。 システム管理者と一般ユーザを区分することができる。 システム利用者の職務権限とアクセス権限を一致させ特定することができる。 特定ユーザのログを収集することができる。	8-1 システムに対するアクセス制限		
			8-1-1ログイン方法		
			1　ユーザIDとパスワードによりログインできる者を制限する機能があるか。		
			2　パスワードの桁数制限や、アカウントロック機能があるか。		
			8-1-2制御方法		
			1　システム管理上の重要な設定項目（ユーザIDの改廃、権限の付与、等）のアクセス権を特定の管理責任者に限定する機能があるか。		
			2　一般ユーザとシステム管理者の権限を区別して管理する機能があるか。		
			3　メニューによる機能単位や、勘定科目単位に制限する機能があるか。		
			4　一定の権限を束ねた権限グループを設定する機能があるか。		
			8-2 ユーザIDの管理に資する機能		
			1　ユーザIDの一覧を出力する機能があるか。		
			2　ユーザID一覧とあわせて最終更新日付を入手する機能があるか。		
			3　ユーザIDの追加、変更、削除の履歴を入手する機能があるか。		
			4　すべてのIDのパスワードの変更状況を管理する機能があるか。		
			5　異動や退職に応じて、期中でユーザの削除、新規登録、権限を変更する機能があるか。		
			8-3 ログ収集の可否		
			1　ユーザ（特権ユーザ、一般ユーザ）のログインログを把握する機能があるか。		
			2　ユーザ（特権ユーザ、一般ユーザ）の実行ログを把握する機能があるか。		
			8-4 権限設定の制限など		
			1　兼務すべきでない権限の組み合わせ等（承認者と申請者が同一の場合等）を制限する機能があるか。		
			2　代理承認等（承認者不在時の対応）の機能はあるか。		
			3　ある場合には代理承認等であることを確認することができるか。		

お問い合わせ

本資料へのご質問・ご相談につきましては、下記よりお気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ

IPO準備はここから始まる！

IPO Compass

セミナー・コラムなどIPOに役立つ情報が満載！

https://www.obc.co.jp/special/ipo

OBIC BUSINESS CONSULTANTS CO.,LTD.

株式会社オービックビジネスコンサルタント
企業成長支援室
東京都新宿区西新宿六丁目8番1号住友不動産新宿オークタワー 29F
https://www.obc.co.jp

©OBIC　BUSINESS　CONSULTANTS　All rights Reserved.